

令和3年度学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座(後期)
開講科目概要

○対面式講習分

開講日時 (全て土曜日)		講座名 ◎講師名	概要	費用	定員	実施大学
9月11日	10:30 ～ 12:00	近代日本の商業史の断面～百貨店の歴史と今後の展開～ ◎渡邊 洋一(わたなべ よういち)	百貨店は、近代日本において単なる大型商業施設としてのみならず、近代以降の日本においては文化施設の性格も持ち合わせたカルチャーセンター的な存在であった。今般の経済状況の変革によりその存在感は希薄となったとはいえ、依然として大都市の中心市街地の核として君臨している。そうした百貨店の盛衰について、社会経済史的視点から考察すると共に、今後の展開について考えてみる。	無料	30名 (先着)	東北文化学園大
9月11日	13:30 ～ 15:00	『次世代放射光と仙台の未来』 ◎村松 淳司(むらまつ あつし)	次世代放射光施設なるものは、現在、東北大学青葉山新キャンパスで建設中で、2023年にファーストビーム(つて何?)、2024年から運用開始される。そもそも放射光とは何なのか、また何の目的で使うのか、何が分かるのか。また、それは仙台の未来と関係しているのか。2023年以降、仙台の何が変わるというのか。また、一般市民にとって何の関係があるのか。小中学校、高校生に果たす効果とは何なのだろうか。そんな疑問にできるだけ平易な言葉で優しく答えたいと思います。	無料	30名 (先着)	東北大
9月18日	10:30 ～ 12:00	カミュ『ペスト』にみる不条理の生き方 ◎加藤 美紀(かとう みき)	コロナ禍に世界的ベストセラーを記録したカミュの『ペスト』を取り上げて、不条理と闘う人間の群像劇を解説しながら、同時期に発表されたフランクルの『夜と霧』との対比も織り交ぜて、不条理体験から人はどう立ち上がるのかを参加者と一緒に考えます。	無料	30名 (先着)	仙台白百合女子大
9月25日	13:30 ～ 15:00	学校教育の国際的動向と日本の課題 ◎水原 克敏(みずはら かつとし)	「関心・意欲・態度」を重視する教育から、2018年学習指導要領改訂によって、コンピテンシー重視(「何が出来るようになるか」)の学力観に転換された。日本は、先進国で最低のパソコン使用率、低い大学進学率、薄弱的な自己肯定感、そして低い学習意欲が特徴である。これまで自己形成の観点から関心・意欲・態度を重視してきたが、2018年改訂では、21世紀の新次元の世界を生き抜くために、コンピテンシー育成に舵を切った。この課題を考える。	無料	30名 (先着)	尚絅学院大
10月2日	10:30 ～ 12:00	植木等と昭和という時代 ◎大久保 剛(おおくぼ たけし)	まだ、コンプライアンスのうるさくない時代。右肩上がりの経済成長で、良い大学を出て、良い会社に入れば、定年退職後まで自分の人生の設計図が明確に描けた時代に、植木等さんは「無責任男」を華麗に演じて時代の象徴になりました。しかし現在は、今まで拠り所としていた人生の設計図が消滅してしまい、時代の速度感だけがドンドン早くなり、自由なようで閉塞感があり、格差も出来てきました。こんな時代だからこそ、植木等さんが輝いた昭和という時代に目を向けて、彼が呼びでないのか? お呼びなのか検証したいと思います。	無料	30名 (先着)	仙台白百合女子大
10月2日	13:30 ～ 15:00	説得の心理学 一人が動かされるメカニズム ◎結城 裕也(ゆうき ひろや)	「説得」と言っても、「お小遣いの金額を上げて欲しい」という切なる願いを持つ夫と、根負けしてお小遣いを上げる妻という構図だけではない。自社の新製品を購入してもらえるように交渉することも説得であるし、気づかれずに自分が望む方向に相手を誘導するのも説得である。このように、日常は説得場面に満ち溢れている。この講座を通して、相手を説得するテクニックと相手に簡単に説得されないために注意すべきことについて、両面から皆さんと共に考えていきたい。	無料	30名 (先着)	仙台白百合女子大
10月9日	10:30 ～ 12:00	子どもの「こころの育ち」を考える ー「感情」の受け止め方と伝え方ー ◎山本 信(やまもと まこと)	「アンガーマネジメント」や「がまんする力」。一般的に、ネガティブな感情は“理性を邪魔する存在”として受け止められがちです。子育てや仕事をはじめ、様々な人間関係の中で“上手に生きる”ための「感情」との付き合い方。テストでは測定できない「非認知能力」とも言われる「感情(こころ)」は、生涯を通じてどのように育っていくものなのか。アリストテレスの思想から最新の研究成果を紹介しながら、皆様と一緒に考える機会になれば幸いです。	無料	30名 (先着)	聖和学園短期大

開講日時 (全て土曜日)		講座名 ◎講師名	概要	費用	定員	実施大学
10月30日	10:30 ～ 12:00	最新医科学が明かす骨の驚くべき役割～内臓としての骨～ ◎東門田 誠一(とうもんだ たかひで)	「骨」と聞くと「カルシウム」「体を支える硬いもの」というイメージが真っ先に浮かぶと思います。それ以外のイメージはありますか？と聞かれたら、何を思い浮かべるでしょうか？「骨粗鬆症」「関節痛」などを挙げる人もいます。でも、これらも「体を支える硬いもの」というイメージとつながっています。この講座では、最新科学によって明らかになってきた骨の本当の姿を紹介します。骨は「内臓」なんです！が、本講座のテーマです。	無料	30名 (先着)	尚絅学院大
10月30日	13:30 ～ 15:00	少子高齢化社会における女性就業 ◎田中 茜(たなか あかね)	少子高齢化の日本社会において女性の活躍がおいに期待されていますが、女性就業の現状に大きな変化は見られていません。「男は外で仕事、女は家で家事育児」という性別によって役割を分担するというスタイルは本当に「伝統的」なのでしょうか。そして令和の時代になってもそうしたスタイルがなかなか変わらないのはなぜでしょうか。こうした疑問に答えるために、統計データに基づきながら家族を取り巻く状況を紐解いていきます。	無料	30名 (先着)	東北文化学園大
11月6日	10:30 ～ 12:00	身近にある「人を追い払うまちの仕掛け」－誰もが暮らしやすい社会のあり方を考える－ ◎山尾 貴則(やまおたかのり)	「わたし」のお気に入り、とある公園のベンチ。天気の良い日にゴロンと横になると、とてもいい気分になれる。そんなベンチに、ある日突然「ひじかけ」がついた。困った、横になれない。気がつくところのベンチもそうになっている。「わたし」の居場所がどんどんなくなっていく…。このエピソードは、私たちの日常で実際に生じていることに基づいています。今、私たちが生きる社会は「生きにくく」なっています。本講義ではこうしたことが起きる背景と、こうした社会の変化について皆さんと一緒に考えます。	無料	30名 (先着)	東北文化学園大
11月6日	13:30 ～ 15:00	再生可能エネルギーと地域再生 ◎東 愛子(あずま あいこ)	東日本大震災以降、日本のエネルギー構造は大きく変わりつつあり、地域分散型のエネルギーである再生可能エネルギーが大きく躍進しています。この講座では再生可能エネルギーを巡る動向の解説や、再エネを軸に地域をもう一度元気にしようと取り組む事例を紹介しながら、地域とエネルギーの新しいかかわりを考えたいと思います。	無料	30名 (先着)	尚絅学院大
11月13日	10:30 ～ 12:00	“いきいき健康づくり～運動で華麗に年をとろう～” ◎田中 亨(たなか りょう)	主に高齢者を対象として健康づくり活動について講座をおこないます。「運動したいけど、どのような運動をすればいいかわからない」と思っている方に、加齢に伴う体力の変化や衰えやすい筋肉について解説をおこない、運動プログラムの一例を紹介します。また生活習慣病予防についても触れ、ご自身の生活習慣や運動習慣を振り返り、よりよいカラダづくりを目指してほしいと思います。	無料	20名 (先着)	仙台大
11月13日	13:30 ～ 15:00	World Englishes/国際共通語としての英語 ◎吉野 千乃(よしのちの)	ますますグローバル化していく世界の中で、日本の教育現場においても「英語コミュニケーション力の向上」を望む声が一層高まってきています。今では当たり前のように「英語＝国際的な共通語」というように考えられることが多いですが、それはなぜなのでしょう。また、私たちはどのような英語を学び、身につけていけば良いのでしょうか。World Englishesという概念に基づいて、考えていきたいと思います。	無料	30名 (先着)	仙台青葉学院短期大
11月20日	13:30 ～ 15:00	江戸時代の乗物と駕籠－文化とデザインの話－ ◎落合 里麻(おちあいりま)	江戸時代の代表的な乗用具として知られる「乗物」と「駕籠」。駕籠の中でもつくりが良く、身分の高い人が用いたものを乗物と呼びます。豪華な装飾の女乗物をはじめ、網代(あじろ)の住職用乗物、富裕の庶民が使った莫産巻(ござまき)乗物、嫁入り用駕籠など、多種多様な乗物と駕籠の文化について、画像を使って解説します。また、各地に現存する乗物・駕籠に焦点を当て、デザインの特徴や傾向、装飾技法などを詳しく見ていきます。	無料	30名 (先着)	東北生活文化大

開講日時 (全て土曜日)		講座名 ◎講師名	概要	費用	定員	実施大学
11月27日	13:30 ～ 15:00	地球環境史とエネルギーから読み解くSDGs ◎大庭 雅寛(おおばまさひろ)	猛暑、豪雨、土砂災害。私たちの生活に大きな影響をもたらす地球温暖化。地球の未来はどうなるのでしょうか？ そのヒントは過去の地球環境史にあります。SDGsの3つの側面の1つである環境について、地球環境史とエネルギーから読み解きます。温室効果ガスの排出を削減する方法として、東北大学大学院環境科学研究科でも実際に導入している地中熱利用とZEB(ネット・ゼロ・エミッション・ビルディング)についてお話いたします。	無料	30名 (先着)	東北大
12月4日	10:30 ～ 12:00	インバウンド観光の来し方 ◎成澤 広幸(なるさわひろゆき)	2003年の観光立国宣言以来、国策として推進されてきたインバウンド観光政策は、昨年度までの結果から見ると入国者数、消費金額ともに成功の部類に入り、日本の輸出を支える大きな部門となった。本講座では我が国にとってのインバウンド観光の意義やそれが必要とされた社会経済的背景、社会・文化・経済などに与えた影響などについて考察したい。	無料	30名 (先着)	仙台青葉学院短期大
12月4日	13:30 ～ 15:00	災害に強い情報通信技術を目指して ー屋外拡声システムの高度化研究を中心にー ◎鈴木 陽一(すずきよういち)	東日本大震災では、情報通信システムも大きな被害を受け、被災状況の把握、復旧・復興を進めるうえで大きな障害になりました。この講義では、その反省のもとで進められてきた、災害への対応性に優れた情報通信技術(ICT)の研究開発を紹介します。 その中でも特に自身が取り組んで来た、屋外拡声システムについて詳しく講じます。東日本大震災では、半数の人が防災行政無線の屋外拡声システムを通じて大津波の警報を知った一方、20%ほどの人は良く聞き取れなかったことが知られています。良く聞き取れなかった原因、そしてそれを解決するための研究開発について解説します。	無料	30名 (先着)	東北文化学園大
12月11日	10:30 ～ 12:00	「誰も取り残さない」災害復興に向けて ◎山崎 真帆(やまざきまほ)	近年話題の持続可能な開発目標(SDGs)は、「誰も取り残さない」ことを基本理念としています。先進国として多くのSDGs指標を達成しつつある日本ですが、日本社会は「誰も取り残されない」社会となっているのでしょうか？この講座では、災害という観点からこうした問いに切り込みます。誰もが災害の当事者になりうる一方で、特に大きな被害を受けたり、復興過程で取り残されがちになる人々がいるのだとしたら、「誰も取り残さない」災害復興はいかにして可能か。一緒に探っていきましょう。	無料	30名 (先着)	東北文化学園大

○オンライン講習分

開講日時 (全て土曜日)		講座名 ◎講師名	概要	費用	定員	実施大学
10月23日	13:30 ～ 15:00	生業景と建築遺産 ー地技を支える場のデザイン ◎大沼 正寛(おおぬまさひろ)	地域らしい営みを地域らしい建築で包むこと。それを建築遺産から学ぶこと。それは復興にも、SDGsにも、美しい景観にもつながります。地域の環境・資源を活かす「地技(じわざ)」に着目し、これを地域の建築遺産とともに活用保全する「生業景デザイン」の可能性について、東北地方の具体例を通して考えます。	無料	300名 (先着)	東北工業大
11月27日	10:30 ～ 12:00	口の健康は長寿社会の要の話 ◎小関 健由(こせきたけよし)	口の機能は「食べて」「話して」「笑う」こと、則ち、食べて体を維持し、話して心をつなぎ、笑って自分自身を表現します。生まれた瞬間から「産声をあげて」「哺乳」して、生涯を通した口の大活躍が始まります。特に高齢の方の口の元気は、元気な生活を送る基盤となります。本講義では、ニューノーマル下での長寿社会を元気に過ごし、健康寿命を伸延する要となる口の健康を考えます。	無料	100名 (先着)	東北大